

# 現地事情を踏まえた教育課程編成

～教務主任の視点から～

前香港日本人学校小学部大埔校 教諭

北海道伊達市立伊達小学校 教諭 永井 修

## はじめに

「赴任先・・・香港」

香港といえば、「一国二制度」で経済的にも発展をしている・・・その程度の情報しかない中で、赴任の知らせを受け取ったことを覚えている。

香港は、[1997年7月1日](#)に、イギリスから中華人民共和国へ返還され、特別行政区となった。それまでイギリスの統治を受けていたこともあり、中国の文化とイギリス・欧米文化が融合した、活気のある貿易都市である。

## 1 雑踏と自然の調和

692万人以上が生活をし、雑踏が当たり前の香港。街中は人とぶつからずに歩くことのほうが難しく、広大な北海道から派遣された私にとっては、そこからカルチャーショックであった。

また、自然に目を向ければ、235余りの島、過去の英国占領時代、軍隊の訓練の一環として山を縦断していたというトレイルコース、海に眼を向ければきれいな浜辺ありで、雑踏から離れると美しい自然も存在している。

「雑踏と自然」…このコントラストも、香港の魅力の一つである。

## 2. 高温湿潤の気候

サバナ気候の香港は、短い秋・冬は温暖で乾燥しているが、春・夏は海からの季節風と熱帯低気圧の影響で高温湿潤となる。特に8月から9月はしばしば台風に襲われ、本土部分と香港島を結ぶスターフェリーやマカオへ行く水中翼船などの海の便や航空便、2階建てトラムが運行停止になることもある。台風の警報がでると、各種イベントが中止となるだけでなく、学校や企業、官公庁も休みになる。

-----【今日は学校休み！？】-----

香港天文台では、雨の警報を「黄雲」「赤雲」「黒雲」という3段階で発令する。

「赤雲」「黒雲」は、朝6：15までに発令されると、その日の学校は休み、と政府の指示で決まっている。

また、台風をあらわす警報は「シグナル」と呼び、シグナル1、3、8、9、10までである。

これも発令される時間帯によるが、シグナル8以上だと、学校は休校となる。

### -----【強烈な冷房～】-----

香港は暑い。36度、湿度が90%・・・という日が夏には続くこともある。不快指数は高まるばかり。それに反してか、建物の中は効きすぎるくらいの冷房がかかっており、外との温度差は10度以上ある。そのため、夏場には不幸にもその温度差で体調を崩し亡くなってしまう人もいたほどである。

「熱気をためるのはよくない」というのが、香港の人たちの基本的な考えであるため、常に新鮮な空気で・・・とのことで、エアコンをつける習慣のようだ。

だから、夏場でも室内用に長袖のものを一着持ち歩く人は多い。

だが、昨今地球温暖化防止を考え、少しずつ室内温度の設定があげられている。

### -----【除湿機は1日で満水】-----

除湿機は、室内のカビをふせぐため、かかせない。しかし、1日かけていけば満水となる。洗濯物は、できるだけ外に・・・とは思うが、雨が多い夏場は一日何度も除湿機の水を捨てねばならない。

## 3. 香港の概要(人/言葉/建物)

### -----【人口】-----

2007年12月の香港の総人口は、統計上では約699万人。また2007年7月の統計では、2036年までに814万人に達することが明らかとなった。その95%が中国系の人々である。出身地別では、広東省出身者が圧倒的に多いが、福建人、上海人、客家人などもかなりいる。

日本の敗戦時、終戦当時の人口60万人から見れば、香港の人口の増加は著しいものがあり、中国回帰に伴う大陸からの流入の抑止が香港政府にとって大きな課題ともなっている。2007年の人口密度は1平方キロ当たり6,270人と世界最高の人口密度。香港島北部のわずかな居住地域と九龍半島への人口の集中が著しい。面積は両者を合わせて127.4平方キロメートルと香港全体の面積の12%足らずにすぎないが、この範囲の中に香港の総人口のおよそ半分にあたる約350万人が居住している。九龍地区の1平方キロメートルあたりの人口密度は43,030人、同じく香港島は15,920人。(東京都23区：13,663人)

(香港の数値は何れも2006年)。赴任校がある新界地区の人口密度は、約3,700人です。

### -----【人種】-----

95%を占める中国系の人々を除くと、香港における外国人居住者は、2005年の統計では、フィリピン人130,810人、インドネシア人114,020人、タイ人28,360人、アメリカ人28,190人、インド人21,820人、カナダ人21,780人、ネパール人17,900人、オーストラリア人15,730人、マレーシア人14,190人、パキスタン人14,140人、イギリス人13,490人、その他となっており、近年、アジアの人々の人口が増加し、欧米の人々の人口が減少している。

なお、2005年10月現在の在留邦人(総領事館届出者数)は25,670人であったが、実際には3万人近い在留邦人がいると言われている。このうち日本人学校に通う小中学生は、香港校、大埔校、中学部3校で約1500名いる。大埔校には514名の児童が通っている。(21年6月現在)。その他、500名を超える現地校や国際学校に通う小中学生がいる。

#### -----【言語】-----

公用語は、英語と普通話(中国の標準語)だが、事実上の共通語(生活言語)は方言の1つである広東語。人口の95.2%の人々が広東語を常用もしくは理解し、38.1%の人々が英語を常用もしくは理解しているといわれている。とはいえ、英語が通じると実感できるのは都心部のみで、学校のある新界地区では通じにくいことが多い。特に、タクシーやバスなどの運転手には英語は通じないのが通常である。

#### -----【建物】-----

地震がほとんどないこともあり、香港では高層ビルが立ち並ぶ。  
摩天楼がここかしこに乱立し、街中では空を広く見ることさえ難しい。  
香港にはIFCという88階建て(420m)のビルを筆頭に、都心部には高層ビルが立ち並ぶ。企業が入ったビルだけではなく、住居も高層ビルとなっている。

## 4. 中国との関わり

香港は、まぎれもない「中華人民共和国」のなかの特別行政区である。しかし、「一国二制度」という特別行政区の仕組みゆえ、中国本土とはかなり異なっているのも確かである。

私が赴任した2007年、香港は中国返還10周年を迎えた。

返還から10年を経て、今尚香港と中国の関係は変化している。

2003年には、それまで認められなかった中国本土住民に香港への個人旅行が解禁された。

香港には、「職場が中国」という人がかなりいる。

香港内でも、広東語ではなく「普通話」教育が加速度的に熱心に行われている。

## 5. 日本と香港

- ・香港行政区内に漂う親日の雰囲気(日本語表記、日本語学校、日本への旅行者多数…等)
- ・日本企業の東アジア進出による、「日系企業母体の中国企業」「日系企業」多数  
→保護者のほとんどは、「現地駐在員」。職場は「中国・工業系」が多い。  
※「香港校」は、「金融系企業」が多いため、香港内が多い。→学校の雰囲気の違い
- ・約3万人の邦人を抱える香港 → 日本食レストラン・日系スーパー・店舗多数

## 6. 香港日本人学校の教育

### 【日課表】

香港日本人学校大埔校キャンパス内には、「Japanese Section」と「国際学級(English Section)」という、カリキュラムが異なる学校があるため、日課表やチャイム時刻なども、かなり綿密に組んでいる。H21年度は、「11校時」を増やし、バス時刻も出発を5分遅らせた。

平成22年度 日 課 表						
香港日本人学校小学部大埔校						
区分	時間	月	火	水	木	金
朝の活動	(♪8:15) 8:20~8:35	朝の会	職員朝会	集会活動	朝の会	朝の会
1	8:40~8:55	1	19	37	51	61
2	9:00~9:30	2/3	20/21	38/39	52/53	62/63
3	9:35~10:05	4/5	22/23	40/41	54/55	64/65
中休み Break	(♪10:10) 10:10~10:30	中 休 み				
4	(♪10:30) 10:30~11:00	6/7	24/25	42/43	56/57	66/67
5	11:05~11:35	8/9	26/27	44/45	58/59	68/69
6	11:40~11:55	10	28	46	60	70
Lunch 昼食・ 昼休み	11:55~12:20 (♪12:20) 12:20~12:50	昼 食 (1・2年) 昼 休 み				
7	(♪12:50) 12:50~13:20	11/12	29/30	47/48	(3-6年) 78/79	13:00 バス発車 昼休み
8	13:25~13:55	13/14	31/32	49/50	80/81	73/74
9	14:00~14:15	15	33	帰りの会 バス発車	82	75
10	14:20~14:50 (♪14:45)	16/17	34/35	14:35	83/84	76/77
11	14:50~15:05	18	36		85	帰りの会



J.I.S 全校写真



J.I.S 校舎全景

平成22年度 改訂日課表から

### 【特色ある教育活動】

#### ① 英会話の授業について

国際都市香港で、ネイティブスピーカーの英語教師から直接授業が受けられるという利点を生かして、英語に親しみながら、実際に使える英語を身につけていくことが香港日本人学校第大埔校の英会話指導の大きなねらいです。

そのため、子どもたちが興味を持ち楽しみながら学べるように、音楽やゲームなどの遊びの要素を入れたり、カードや絵本などで視覚化された教材を使ったりしながら様々に工夫しています。そして、様々な活動を通して生きた英語を学ぶことができるようにしていきます。

各学年の学習内容については下記をご覧ください。毎日の授業を通して英語に親しみ、より国際的な感覚を身につけていってくれることがねらいの根底にあります。

学年	学習内容や学習方法など
1年	テーマ（colors,numbers,weather,classroom,family,school,sports,など）に沿って生きた英語を学んでいきます。また、英単語を読んだり、書いたりする基礎を築くためにphonics（アルファベットの基本的な発音の仕方）を学習します。
2年	低学年は、特にゲーム、歌などの活動を多く取り入れながら英語に親しみ、楽しく学んでいきます。テキストも使用していきます。
3年	テーマごとに更に生きた英語を学んでいきます。テキストブックだけでなく、その他の補助教材もふんだんに使いながら、学年に沿って英語の力を高めていきます。 1つのテーマの学習が終わるごとにそのテーマの中で学習した簡単な英単語のスペリングテストもノートブック（薄い表紙のノート）を使ってする場合があります。
4年	テストがあった日は、児童がそのノートを持ち帰りますので、保護者はそのページに確認のサインをします。
5年	また、第2言語を学ぶためのもう1つの効果的な方法として英語の簡単な本を読んでいきます。それによって更に英会話の力もついていくことをねらいとしています。
6年	子どもたちは、スペリングノートブックの他に黒いハードカバーのノートを1冊持っています。これは、学習した英単語を書きためていき、自分の英語の辞書にしていくためのものです。学年が変わりましても引き続き使っていきます。それぞれ習熟度に応じてクラス分けをし、テキストブックとワークブックを使用し学習を進めていきます。

（指導体制）

- ・英会話のクラスは、学年を5～6つに分けた少人数制で行います。
- 学期始のクラス編制の際は、「経験」「児童数」等考慮をして、行います。
- ・担当教師は、ニュージーランド、イングランドなどのネイティブスピーカーの教師陣です。

（教材）

◆テキストブック（ワークブック付き）

1年生から6年生まで本校の英会話の授業に沿ったテキストブックを使っていきます。英会話の授業を更に充実したものにしていくため、英会話教師全員で精選したものです。

テキストブックの代は、各学年の教材費と一緒に学期末に集金。

習熟度に応じていくつかの種類テキストブックを使用しますので、英会話のクラスによって代金が異なります。

◆リングファイル

全学年、プリントをファイルするリングファイルを使用します。前年度購入した児童はそのファイルを引き続き使用します。1年生と編入生は新たに購入します。テキスト同様にこの代金も、各学年の教材費と一緒に学期末に集金します。

## ②図工イマージョンについて

イマージョン(Immersion)とは「どっぷりつかる」の意味 (Imagination ではありません) で、「没入教育」等と訳されています。イマージョンプログラムは外国語教育の一方法ではありますが、「英語を教える」のではなく、「英語で教える」ことになります。母国語を獲得した過程と同じような方法で第二言語を習得させることが強調され、そうした教育を受けた児童は、母国語だけで教育を受けた児童に比べて教科の成績は同等かそれ以上というデータが発表されています。

香港日本人学校小学部大埔校では図画工作にこの方法を用い、イマージョン教師と意志の疎通を英語で行いながら作品作りに取り組んでいきます。自分の思いを絵や立体に表現する喜びを感じると同時に、英語を理解する力や英会話力を養うことをねらいとしています。

(指導体制)

- ・ 4年生以上を対象 ・ 図工のクラスは学級単位
- ・ ネイティブ教師と日本人図画工作専科教員がT・T (チームティーチング) を組んで指導 (教材)

◆学習指導要領を基本に、ネイティブのスタッフとともに教材開発をしていきます。

## ③モジュール制について

香港日本人学校小学部大埔校では、授業の1単位時間を固定することなく、15分の時間単位を組み合わせたモジュール制によるカリキュラムで授業を行っています。45分授業、30分授業、図工等、集中して作品を制作する場面においては、60分授業も行っています。また、漢字練習や計算練習などを15分の中で集中してできるようにモジュール制のよさを取り入れた授業を行っています。

## ④水泳について

屋内プールの設備のある香港日本人学校小学部大埔校では、一年を通して水泳指導を行います。

(指導体制)

- ・ 同学年または異学年の2～3学級で行い、一斉または能力別など様々な形態で指導を行います。
  - ・ 学級担任とスイミングスタッフ (現地のインストラクター) が協力して指導します。
- ※その際、主の指導者は「インストラクター」。(英語で指導) 担任は補助。

ゆえに、評価は「インストラクター」



J.I.S 敷設 温水プール



も行う。

**【現地理解教育・国際理解教育】**

日本人学校は、「海外にある」という最大の特性を生かし、国際理解教育の視点に立ち、現地理解教育を、あらゆる教育活動において積極的に推進していくことも、使命の一つ。

参考までに、各学年の年間の主な校外学習予定を紹介する。

1年	・ ・ ・ 現地の公園（生活科）、Clear water bay（図工科、English Section との交流）
2年	・ ・ ・ 現地の公園（生活科）、MTR旅行（生活科） ※MTR：香港の主鉄道 現地市場での買い物学習（生活科） ※使用言語：広東語・英語
3年	・ ・ ・ 現地自然公園（理科）、図書館（社会科）、街市（Market）調べ（社会） JUSCO 見学（社会）、ヤクルト[益力多]工場見学（社会）、警察署見学（社会）
4年	・ ・ ・ ゴミ処理場、浄水場、ANA航空教室（以上、社会科） 宿泊学習（現地の自然体験プログラムをもった団体のもとで）※使用言語は英語のみ
5年	・ ・ ・ 学習旅行（1泊2日）※中国・広州で豊田工場見学なども含む 現地の川（理科）、JAL空港見学（社会） 北京五輪馬術競技応援
6年	・ ・ ・ 香港歴史博物館（広東語・通訳つける） 修学旅行（2泊3日 H21は上海）

- 現地施設との折衝の難しさ
- 学習の際の、通訳ボランティア（保護者）の協力要請
- バス会社との折衝の難しさ
- 日系企業の、細かな配慮のもとでの見学受け入れ → 日本人の長所を痛感
- 現地の自然と触れ合う上での、香港ならではの注意点
  - ・ 毒カタツムリ
  - ・ 毒ヘビ
  - ・ 鳥インフルエンザ
- 教員の現地理解活動
  - ・ Dragon Boat Race への参加
  - ・ 現地学校視察
  - ・ IBプログラム講義 など



4年生 航空教室

**【主な学校行事とその取組の様子】**

5月	交通安全教室	地元・香港警察に来ていただき、Power point 資料での説明。 日本とは異なる交通規範もあるので、その差異に留意しながらの事後指導に配慮した。 連絡から当日の対応に到るまでは、国際交流ディレクター並びに、日本語の話せる香港人スタッフの力を借りて実施。
	1年生を迎える会	時数確保の視点からも、準備にかかる時間削減のため、出し物をする学年、装飾担当の学年…と役割分担をして1時間で終わる会を企画。その後は「縦割り班（大埔だ班）」での活動に1時間充てる。

		(児童同士の交流が日常で少ない分、縦割り班活動を重視)
9月	修学旅行	6年生は、2泊3日日程で中国・上海、蘇州へ。 パスポートやビザの事前チェック、H1N1に係る検疫への提出物、飛行機への搭乗準備等、事前の準備が多々日本と異なる。 児童だけの「自主研修」は治安上組めないが、比較的 안전한場所での自由行動を実施。
	予防接種	四種混合の予防接種。ジフテリア・破傷風・百日せき・ポリオを予防するもの。
10月	運動会	香港という土地柄、校地内のグラウンドは狭い(サッカーコートの半分程度)ため、地元大学の運動場を借りて実施。 香港内は広い運動場が少ないため、そのような場所は抽選で決定となる。そのため、運動会実施時期・場所が動く場合もある。
11月	宿泊学習(4年)	4年生は、1泊2日の宿泊学習を実施。 香港内の自然に触れられる研修施設にて、地元インストラクター(英語)による指導のもと、活動を行う。目的としては、日本の5年生が行う宿泊学習と同じ。
	学習旅行(5年)	5年生は、1泊2日の学習旅行を、中国・広州にて実施。 香港内ではなかなかできない工場見学などを、広州トヨタの協力などを仰ぎながら実施。国際理解(現地理解)の観点と、社会的な目的をもって計画。 こちら、出国手続きが生まれるため、事前の税関・検疫関係の書類準備等が発生する。
1月	オープンハウス	日本でいう「学園祭」のようなもの。午前は、学習発表会(学芸会)、午後は名前の通り校内をオープンし、外部業者等入っての販売など。児童は自由参加ではあるが、「名人会(Talent Show)と称し、得意なこと発表会を大々的に実施。
3月	卒業証書授与式	領事館、理事会、地元日系幼稚園関係の参加。 児童は、5年生が代表として参加。 昨年度は、1~4年生も主体的に卒業式に参加できる心をつくれるよう、卒業生の退場曲を全校合唱とし、事前に録音したものを流した。

## 【新学習指導要領への移行期の教務主任の仕事】

平成22年度の日本人学校の時数概要は以下の通り。(5学年で算出)

	J. I. S
年間授業日数	200日
年間カット時数	68時間
学校行事時数	<u>58時間</u>
実授業時数	968時間
余時数	12時間



新学習指導要領の完全実施に向け、移行期間が始まったのが21年度。

私は、その前年の20年度より教務主任を務めてきましたが、一番苦労したのが、

**学習指導要領改訂に係る情報収集** です。

改訂に備え、大きな課題となったのが **時数確保** です。

そのために行ったのが、 **時間割の改訂** + **行事の精選** でした。

#### →**時間割の改訂**

授業時間を、1日15分増加（11時間目の追加）

これに伴い、バス利用者会と協議をし、バス下校時刻の変更。

#### →**行事の精選**

“ある行事を減らす”ことはしませんでした。 “この行事に使う時間を確保してほしい”という意見のある先生方を、説得することに心掛けました。

とにかく「余時数」が究極に足りていない現状から、学校教育目標を達成するための行事のみ残り、学習時間を確保する取組と情報提供に奔走しました。なのに…

## 【**新型インフルエンザ(H1N1)の猛威**】

21年度は、しっかり整備をしてスタートしたものの、1学期中ごろより流行し始めた「新型インフルエンザ」により、計画は崩れて行きました。

- ・2009年6月19日 香港政府が「すべての幼稚園・小学校に、夏休み終了までの休校措置」を指示。……………これによって、1学期の学習はほぼ半分程度の実施となりました。

### **保護者の不安に答える**

「学習内容がすべて終われないではないか」

「日本人学校は、香港の学校ではないのだから、日本の学習内容を終えられるよう、休校する必要はないではないか」

「もし学習が終わらなかったらどうするのだ。受験も控えている。どう責任をとるのか」

「学校として、一体どういう対応をするのか」

矢継ぎ早に入ってくる保護者からの電話に対応するのは、教頭や私の役回りでしたので、大変悩まされました。

結果、次の措置を講じました。

**① 土曜登校日（7回：約23時間分）設定による授業時数の確保**

**② 休校期間中の、「自習・質問教室」の実施（授業ではなく、自由参加）**

**③ 休日を登校日に変更**

#### ④ 午前日課の日を終日日課へ変更

### 7. 日本の子どもと、海外に住む日本の子の違い

	日本人学校の子ども
学習環境	日本同様、塾通い（日系の塾あり）が多い。
学力	全般的に高い。CRTでも全国平均を下回ることはない。 読書量も、全般的に高め。表現力は高い→表現することに対して『臆する心』が日本の子に比べて少ない、という実感。
体力	日本の子より劣る。自転車を乗ってはいけない居住区域に住む子がほとんど。広い場所がないのが実情。但し、泳力は高い。2年生でも自由形25m以上を泳げる子が3分の1以上。

とくに「表現力」というところでは、日常生活から「表現しよう」と教師が力みすぎず、「表現することが当たり前」という雰囲気ができているため、日本の子との差を感じました。

### 9. おわりに

私生活では、日本ではできない経験をたくさんすることができた。

- ・ 広東語と英語でまくしたてられながらの不安いっばいの手術
- ・ ドラゴンボートレース参加での現地理解。
- ・ 娘がインター系幼稚園に通い、あっというまに **Native Speaker** になってしまったこと。
- ・ 教務主任になってからの毎朝の英語での打ち合わせ参加・英会話スタッフとの会議等、また、現地の友人との交流を通して、実践英語が身に付けられたこと。  
(臆さない心と、適当でもOKという完ぺきを求めない心)
- ・ 広東語を身に付けることで、現地のスタッフが大変協力的になったこと。
- ・ 四川大地震、チベット内紛などへの義援活動を通し、海外での災害を対岸の火事にとらえなくなったこと。
- ・ 現地ソフトボールチームでの大会参加・現地アイスホッケーチームでのゲーム参加などで、様々な職種の方と交流することができ、学校現場だけでは聞き得ない情報を得たこと。

義援活動でできた中国国内の学校施設



そして、何より、全国から集まった教員とともに仕事をする中で、多種多様な考え方をもつ人たちとともに教育課程を円滑に進めていくためには、「本質」を大切にすることの肝要さを実感できたこと。

雑多な考え方の先生方が集う以上、どこまでも standard としてきたのが、いうまでもなく「学習指導要領」であり、その他の法規関係でした。

「帰国したときに児童が十分に力を発揮できる」ことを求められる日本人学校の職員として、個性は大事にしながらも、自身の偏狭な考え方をかなぐり捨てて、「当たり前のことを当たり前」に進めることの大切さを実感できた担任としての1年と教務主任としての2年間でした。